

令和元年度（2019年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教主義のもと、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
 - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
 - (2) 新人教員育成制度の導入
 - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語4技能の修得と国際理解を深める。
- 2、ICT教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
 - (1) ICT機材を用いた授業研究の推進
 - (2) ALを取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
 - (1) 火災・防災訓練の強化
 - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
 - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
 - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
 - (1) 財務説明会の実施
 - (2) コスト意識の改善

3. 学校評価の結果と分析

【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して4段階（そう思う(4点)・だいたいそう思う(3点)・あまり思わない(2点)・思わない(1点)）でアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

中学はクラス担任、普通教科ともに各項目とも昨年より高い評価であった。特にクラス担任で評価の高い項目は、「話し方は聞きとりやすく、わかりやすい」「朝のクラス礼拝が整然と行われるように指導している」であり、昨年度より評価が高くなった項目は「何でも相談しやすく、適切なアドバイスをしてくれる」、「話し方は聞きとりやすく、わかりやすい」であった。普通教科でも、「話し方は聞き取りやすく、わかりやすい」、「授業の程度(レベル)は適切で、わかりやすい」、「一人ひとりに公平に接している」で評価が高く、「授業の程度(レベル)は適切で、わかりやすい」「わからない時は気軽に質問でき、ていねいに教えてくれる」「話し方は聞き取りやすく、わかりやすい」の各項目で昨年より大きく評価が高くなった。生徒からの信頼や満足感向上が図られたと考える。しかし、実習教科については全ての項目で昨年の評価より評価が下がった。これは新型コロナウイルス感染防止のために実技を制限し講義を増やしたため、生徒の満足度が低下したためと考えられる。コロナ禍においてもICT教材を用いるなど授業方法を工夫し満足度を上げるよう努めたい。

高校はクラス担任・普通教科・実習教科ともに全ての項目でほぼ昨年と同様で、引き続き高い値であった。きめ細かい指導に対し評価されていると考える。

【専任教員による自己評価の結果・分析】

一昨年度から、教育内容に「主体的・対話的で深い学び」に関する項目、および ICT 機材の活用に関する項目の 2 項目を新たに設定し、学校運営 15 項目・教育内容 16 項目・生徒指導支援 6 項目・教員研修資質向上 5 項目についてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の 4 段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、A を 4 点、B を 3 点、C を 2 点、D を 1 点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～D の頻度を回答合計数に対する割合（％）で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

昨年度は、ほぼ全ての項目で評価が下がったが、今年度は 42 項目中 29 項目で昨年度より評価が高くなった。特に評価が高まった観点項目は、「私学の独自性」、「教職員の連携」「教育活動」「生徒支援」があげられる。詳細に見ると、コロナ禍による休校中に積極的にリモート授業を展開するなど対策を実施したため「ICT 教材の活用」、「情報能力の育成」、「学習指導による工夫・改善」また、リモート授業を実施するにあたり教員間で盛んに情報交換が行われたため「教員間の連携」の項目で評価が高くなったと考えられる。逆に評価が低下した観点は、「情報公開」「開かれた学校づくり」教育内容の「その他」「教員研修」があげられる。コロナ禍により授業参観や各種行事、クラブ活動、国際交流、教員研修などが中止や規模の縮小が行われたため評価が下がったと考えられる。今後は、コロナ禍であっても生徒に満足してもらえる取り組みを工夫し実施していくなど重点課題として取り組む必要がある。

4. 学校関係者評価委員会からの意見 2020 年 10 月 29 日実施

(出席委員) 校長・教頭・PTA 会長・地域郵便局長・学園評議員(総務部長)

【令和元年・2 年度実施の生徒評価について】

- ・毎回評価が高く良いことだと思う。
- ・中学の実習科目の評価が昨年より低くなっているのはなぜか。→コロナ禍において実習が制限され講義が多くなったために生徒の満足度が下がったためではないか。
- ・昨年と比較しクラス担任の評価が高くなっているのはなぜか。→コロナ禍でよりこまめに声掛けをしていたためではないか。

【令和元年・2 年度実施の教員自己評価について】

- ・建学の精神の理解や愛校心について評価が高まったことはよい。「愛なる女学校」「チャレンジ&エレガンス」の標語が浸透してきたのではないか。
- ・学校行事や国際理解の評価が低くなった理由は、コロナ禍により行事が延期や中止となったためと考えられるが、今後延期した行事を実施すると評価は改善する可能性もある。
- ・情報公開について評価が低かったが、イベントや行事は積極的にホームページに掲載している。教員のホームページに対する関心が低いのではないか。もっと学内的にもアピールしていきたい。
- ・教員研修に関して、評価が低くなった理由として、1 学期に実施してきた教員間での授業参観をコロナ禍のため実施できなかったことがあげられる。今後実施していきたい。
- ・コロナ禍でも、いい思い出を作ってもらいたい。
- ・財務状況の把握について評価が低いのは、教員に関心がないからではないか。職員会議ではたびたび財務状況について言及している。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充実	(1)教員間の授業参観を推進する。 (2)新人教員育成制度の導入を検討・実施 (3) 英語 4 技能の修得と国際理解を深める	(1)授業参観期間を設定し、レポートの提出を義務化することで授業改善を促す。 (2)新人教員にアドバイザー教員を配置し、授業・生徒指導等でレポートを作成し育成をはかる。新人教員を対象とした教員研修を実施する。 (3)課外活動として英語を学ぶ機会(外部講師での英会話・英検対策講座、TOEFL 受験対策講座)の継続。また、イングリッシュオアシスの利用促進やイングリッシュシャワーの継続。外部ネイティブスピーカーと会話出来る機会を増やす。	(1)教員による自己評価アンケート(以後自己評価)教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交換を行う機会がある」の肯定的評価(A+B の値)を 75%以上にする。1 学期はコロナ禍により教員間の授業参観は実施できなかった。 (2)自己評価・教員研修「初心者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。」の肯定的評価を 70%以上にする。 (3) English Communication Day をリベラルアーツコース対象に実施しネイティブスピーカーとの会話の機会を増やした。また、英検 2 級以上取得者を English Elite Member に認定しネイティブの特別レッスンの受講を可能とした。 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。」の肯定的評価を 80%以上を保つ。	(1)2019 年度 40.9% 2020 年度前半 30.6% (×) 授業参観の回数を増やすことで充実を図る。 (2)2019 年度 18.1% 2020 年度前半 22.3% (×) 指導回数や計画的な研修・懇談の導入など改善し、継続して取り組む。 (3)2019 年度 84.1% 2020 年度前半 75.0% (△) イングリッシュオアシスの活用法の工夫など、英語に触れる機会を増やす取り組みを継続して実施する。
2. ICT 教育の推進	(1)ICT 機材を用いた授業研究の推進 ・ ICT 環境の整備 (2)アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業研究の推進	(1)ICT 教育推進委員会を中心に情報収集・校外研修に参加する ・新たに Wi-Fi の使用可能な教室を増やす。 ・Wi-Fi の通信能力の増強を図る (2)「みんなのドラマ」を活用しグループワークやプレゼンテーションを実施し「主体的・対話的で深い学び」を実施する。	(1)ICT 教育推進委員会を中心に研究授業を実施。他の教員が授業レポートを作成し委員で共有する。 「ICT 教材を活用した教育が活発に行われている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 ・2019 年度全ホームルームで Wi-Fi の使用が可能となる。 ・2020 年度前半 中庭・円形講堂・食堂・図書館などで Wi-Fi の使用が可能となる。 (2)「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の視点に立つ学びに向けた教育を行っている」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1)2019 年 68.2% 2020 年度前半 83.3% (○) 授業での効果的な活用をめざし重点項目として継続する。 ・電子黒板機能付きプロジェクター、Wi-Fi の使用環境が整う (○) (2)2019 年 52.3% 2020 年度前半 69.5% (△) 授業での効果的な活用をめざし重点項目として継続する。
3. 危機管理の徹底	(1)火災・防災訓練の強化 (2)不審者への対応マニュアルの改訂 (3)災害への対応マニュアルを設定	(1)学期ごとに 1 回年間 3 回実施する。 (2)校務分掌の変更など整理し、現行の対応マニュアルの見直しを実施する。 マニュアルを教職員で共有化し対応できるよう訓練等を実施する。 (3)事故対応マニュアルを教職員で共有化し対応できるよう研修・訓練等を実施	(1)2019 年度 3 回実施した。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。 (2)2017 年改訂を行い教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分取られている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。 (3)2019 年 5 月アフイチキの対応のためエビペン使用講習およびてんかんの教員研修を実施。2020 年引き続きアフイチキの対応のためエビペン使用講習およびてんかんの教員研修を実施。 救急救命講習を高校 1 年生全員、体育系クラブ員、教員対象に年 1 回実施する。 評価指標は上記(2)と同様	(1)2019 年度 75.0% 2020 年度前半 69.4% (×) 継続して取り組む (2)(3)2019 年度 77.2% 2020 年度前半 65.7% (×) 継続して取り組む 今後(2)(3)を合わせて危機管理マニュアルとし、訓練や見直しを継続的に実施することで生徒教職員の安全確保を万全にしていく。

<p>4. カウンセ セリン グ強化</p>	<p>(1)カウンセとの連携強化 (2)不登校生徒への対応強化</p>	<p>(1)カウンセと教員との懇談を定期的に実施する。 (2)別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。</p>	<p>(1)カウンセを含め特別支援委員会を月1回、定期開催し、支援が必要な生徒の把握および対応方法が教員間で共有できた。 自己評価・生徒支援「カウンセグマインド」を取り入れた支援体制がある。カウンセの活用が出来ている。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、別室を設置、コーディネーター教員を配置した。教室への登校を目標に保護者、カウンセとも連携し対応を強化する。 評価指標は 上記(1)と同様とする。</p>	<p>(1)(2)体制が整い、生徒支援が進んだ。 2019年度 84.1% 2020年度前半 86.1% (○) 継続して取り組む。 不登校傾向のある生徒が増加傾向にあるため、対応強化に継続して取り組む。</p>
<p>5.財 務状況 の共有 化</p>	<p>(1)財務説明会の実施 (2)コスト意識の改善</p>	<p>(1)職員会議での財務説明会を実施する。 (2)職員会議等でコストに対する意識付けを喚起する。 ・節電 ・コピー用紙の使用量減</p>	<p>(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。 (2)節電も含め下校時間を見直し徹底を図る。また、職員室の19時消灯の徹底を図る エアコンの設定温度の指導管理を強化する。 Classi等の媒体での連絡やデータでの情報共有を進める。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。</p>	<p>(1)2019年度 32.63% 2020年度前半 28.6% (×) 継続して取り組む。 (2)2019年度 29.5% 2020年度前半 22.2% (×) 継続して継続して重点項目とする。</p>